

－第11回事業創造講座－

<基調講演>

演題「煉瓦で味わう、食と住まい」

増田煉瓦株式会社

代表取締役 増田晋一 氏

発表者の四代目代表取締役 増田晋一さんは、企業戦略の中に既存事業から新規事業への方向付けをしました。具体的には、煉瓦事業の衰退原因調査や大企業と小規模事業者の役割や特徴を理解してオンリーワン商品開発を目指しました。社長としての夢をいかに理解してもらい、社員に同じベクトルで進めるかを日々考え続けながら取り組みをされました。そんな中、煉瓦から生み出された付加価値製品や煉瓦にまつわる様々な事業を展開しました。

煉瓦の新市場は、イタリアでの食文化の交流や地域農産物を使った窯料理、さらには、技術研修を通じて生み出されました。

増田煉瓦研修所「パン工房」では、研修や新商品開発の場として利用されています。石窯でできるパン・ピッツァの新商品開発は、地域産業資源活用支援事業を活用しています。

営業活動の場は、国際ホテル・レストラン・ショー等の展示会でここから仕事につなげています。ミラノで開催される「HOST2015」展示会では、イタリアの大手企業と組んで日本に良いものを取り入れています。

企業の生き残り戦略については、新規業界への参入する際に潰されない対策、グローバルニッチだからこそクレームを発生させない対策、地域での活躍集団との連携から発信、100周年後に残せる技術と仕組みの構築などがあります。

100周年後に残せる技術と仕組みの構築作りは、若手の職人技が発揮できる市場創出やアジア・ハワイ圏内のピッツァ窯ビジネスの創造、量産化に向けての地域と連携したパートナー構築があります。

<特別講演>

演題：事業創造へ向けた行政施策と支援制度

経済産業省 関東経済産業局

地域経済部 新規事業課長 大熊奈津子氏

特別講演では、3つの事業について紹介されました。

1つ目は、農商工等連携事業。

中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、お互いの経営資源を持ち寄り、新しい事業に挑戦することにより、新商品もしくは新サービスが実現し、互いの経営の向上を目指す取り組みとなっています。

連携の意義として、生産物の需要拡大等を通じた農林水産業の収益拡大や地域経済の活性化、食料自給力の向上などをあげていました。

全体の流れは、農林漁業者と中小企業者が協力→お互いの強みを活用→売れる商品・サービスを開発→お互いがwin-winとなります。

その他に認定要件や農商工等連携促進法における支援の流れなども紹介されていました。

2つ目に、地域資源活用事業。

地域の「強み」である「産地の技術」「農林水産品」「観光資源」等の地域資源を活用して、新商品・新サービスの開発・市場化に取り組む中小企業に対して、法律に基づき認定し、総合的に支援します。

地域資源とは

- ・ 地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工業品
- ・ 地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術文化財、自然の風景他、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているもの

その他に地域資源活用プログラムのスキームや認定要件についてお話をさせていただきました。

3つ目は、新連携事業。

新連携とは、異分野の事業者が有機的に連携し、その経営資源（設備、技術、個人の有する知識及び技能その他の事業活動に活用される資源）を有効に組み合わせて、新事業活動を行うことにより新たな事業分野の開拓を図ることと説明されていました。

新連携の要件には異分野、新事業活動、新規事業分野開拓、財務面、連携体についてそれぞれ詳しく説明されました。その他に認定ポイントや補助金・低利融資などの支援ツールなどを紹介して、最後に幾つかの業種を認定事例にあげて紹介してくれました。